



1. 18区 H1溝完掘状況



2. 18区 H16住カマド



3. 15a区 五領ヶ台式土器出土状況1



4. 15a区 五領ヶ台式土器出土状況2

●主な調査成果

平成27年から調査を始め、平安時代と縄文時代の集落が見つかっていました。休止期間をはさみ、今年度に隣接地を調査しています。立地上、地震などの影響により地すべりの痕跡がたくさんあり、調査は自然の力の痕跡も考えながら行っています。

平安時代では、前回の調査区から続く溝と竪穴住居が発見されています。溝は断面が逆台形で、丘陵尾根を横断するように東西に伸びています。竪穴住居はその溝より南側からしか発見されていないことから、溝は何らかの区画の役割をもっていたものと考えられます。また、本来東西にまっすぐ伸びていたと思われそうですが、地すべりの影響で、斜面下側へ向かって押し出されたような形で見つかりました。縄文時代中期初頭の五領ヶ台期の土器もまとまって発見されていますが、やはり地すべりの影響により、南側の斜面下側に分断されて、ずれている状況が確認できました。

- 調査期間 2020年7月1日～調査中
- 事業者 中日本高速道路株式会社
- 調査原因 新東名高速道路建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
- 時代 近世、中世、奈良・平安、弥生、縄文
- 所在地 秦野市柳川
- 遺跡位置 小田急小田原線渋沢駅の北西約4kmの丘陵尾根

